

## 第4回美浜区地域福祉計画推進協議会 議事要旨

- 1 日時 平成19年1月27日(土)午前10時～午後0時15分
- 2 場所 美浜区役所4階 講堂
- 3 出席者 (委員)  
北委員長、飯野副委員長、  
池田委員、石原委員、内田委員、小椋委員、桑原委員、佐々木委員、鈴田委員、  
高橋委員、内藤委員、長岡委員、長倉委員、成田委員、松本委員、村社委員、  
山崎委員、吉岡委員 (18名)  
(事務局)  
上原美浜福祉事務所長、  
福祉サービス課 古川主幹、石原補佐、八木副主査  
保健福祉総務課 森川主幹、半澤主査、野田主事  
社会福祉協議会美浜区事務所 石井所長、斉藤主事

### 4 報告事項・議題

- 報告 (1) 委員の選出区分の変更について  
議題 アンケートの結果とグループ会議について  
報告 (2) 来年度の推進協議会の予定について

### 5 議事の概要

- 報告 (1) 委員の選出区分の変更について  
1人の委員の選出区分変更についての報告があった。  
議題 アンケート結果とグループ会議について  
事務局からアンケートの結果を報告した。  
今後テーマごとにグループにわかれ、グループ会議で検討することとした。グループ会議のテーマや進め方については、参加希望のある委員に残ってもらい、協議することとした。  
報告 (2) 来年度の推進協議会の予定について  
次年度の委員選出の考え方等について事務局から報告した。

### 6 会議経過

- (1) 開会
- (2) 発言の要旨

#### 【全体会議】

報告 (1) 委員の選出区分の変更について

委員長： まず、事務局からの報告事項がある。

事務局： 団体から推薦をいただいた委員で、現在その団体関係の仕事から離れている委員が

いらっしゃったが、団体代表者、委員本人と話し合った結果、継続委員となることで了解を得たので、ご報告させていただく。事務局の不手際で、推進協議会の各委員にご迷惑をおかけしたことをお詫びします。

委員： 今後は継続委員としてご協力させていただくのでよろしくをお願いします。

議題 アンケート結果とグループ会議について

委員長： アンケート結果とグループ会議について、事務局から結果報告の後、議論していただきたいことについて提案したい。

事務局： 先日実施したアンケートの結果について報告したい。

まず、アンケートを実施するに至った経緯を振り返ってみると、今までの推進協議会の中で、推進協議会で何をしていくのかははっきりしない、区地域福祉計画の推進のためには、計画の中身をもう少し理解する必要がある、テーマを決めて話し合った方がよい、といった意見が出た。また会議の進め方として、31人という多数の全体会議では、各委員の意見を十分に聴くことが難しいという問題があり、計画の取組事項の内容を深く理解するためには、効率的な会議運営の検討が必要であるということになった。そのため、グループ会議を設置し、検討する内容は各委員からのアンケートにより決定することになった。

アンケートの実施にあたり、推進協議会委員にアンケート作成のご協力をお願いしたところ、4人の委員にご参加いただいた。

アンケート委員にはまず、テーマを決定するために選定する項目をどのように設定するかということを検討していただいた。その結果、39の取組事項1つ1つを個々にグループで検討するのは関連項目もあり、非効率的と思われること、逆に4つの基本方針だと、内包項目が多すぎることから、15の施策の方向性を単位として選択していただくこととした。また、取り組みたいテーマと同時に、現時点でのグループ会議への参加意向も聴くこととした。

アンケートは、12月1日から11日までとして委員長、副委員長を除く委員29人に発送し、26人の方から回答をいただいた。グループ会議については、14人の委員から参加の意向があるという回答をいただいている。

アンケートでは、取り組みたいテーマを5つ選び、希望順に1位から5位まで番号をふっていただいた。

集計結果の概要は以下のとおりである。

集計表（希望順位に関係なく、選択された件数が多い項目）

【全員】

（9）居場所、交流の場づくり 13件

（1）町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援 11件

（2）安心、見守り体制の構築 11件

【グループ会議に参加意向のある委員の回答】

- ( 3 ) 地域の世話役づくり 8 件
- ( 1 ) 町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援 6 件
- ( 2 ) 安心、見守り体制の構築 6 件
- ( 4 ) 市民に身近な公的支援 6 件
- ( 11 ) 社会福祉協議会の機能充実 6 件

集計表 (上位に選択された項目・全員分)

【1位に選択されたのが多かった項目】

- ( 1 ) 町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援 6 件
- ( 9 ) 居場所、交流の場づくり 5 件
- ( 8 ) 地域での定住、在宅での安心した暮らしの確保 4 件

【1位、2位に選択されたのが多かった項目】

- ( 9 ) 居場所、交流の場づくり 10 件
- ( 1 ) 町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援 7 件
- ( 11 ) 社会福祉協議会の機能充実 7 件

【1位～3位に選択されたのが多かった項目】

- ( 9 ) 居場所、交流の場づくり 10 件
- ( 11 ) 社会福祉協議会機能充実 8 件

集計表 (上位に選択された項目・グループ会議参加意向有)

【1位に選択されたのが多かった項目】

- ( 1 ) 町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援 4 件

【1位、2位に選択されたのが多かった項目】

- ( 9 ) 居場所、交流の場づくり 5 件

【1位～3位に選択されたのが多かった項目】

- ( 3 ) 地域の世話役づくり 5 件
- ( 9 ) 居場所、交流の場づくり 5 件
- ( 11 ) 社会福祉協議会の機能充実 5 件

そのほか、テーマを選択した理由やグループ会議に不参加の理由、グループ会議に関する意見等をいただいたものを列記した資料があるので、ご覧いただきたい。

委員 長： 事務局の説明に対して質問等あれば出してほしい。

委員： 回答委員の26人と、回答件数の総合計が合わないがどういうことか。

事務局： 1人1項目ではなく、複数回答しているので、回答委員数とは合っていない。

委員： テーマについて確認したい。計画の施策の方向性をもとにアンケートを取ったということだが、グループ会議で話し合う内容は、この中にある取組事項に限定されるのか。

副委員長： 取組項目のとおりである。

委員： 例えば、(1)「町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援」には コミュニティビジネスによる地域住民の生活支援、 小学校区を単位とした「地域福祉まちづくり会議」といった項目があるが、生活支援というのはこの2つ以外にも色々あると思う。そういうことも議論してよいのか。

事務局： 2年間かけて、美浜区地域福祉計画が策定され、15の施策の方向性、39の取組事項が決定された。今回はそれに沿ってアンケートを取っているので、取組事項の内容について検討、研究していただくことになると思う。ただ、複数の取組項目を一緒に検討するか、別々に検討するか、というようなことは、委員どうして話し合っていたらよいと思う。

委員： 計画の取組事項以外にも、生活支援について色々な方法があるという意見が出ると思う。また取組事項に実現性があるのかという議論もしてよいと思う。2年間かけたのであれば、もう少し具体的に出てきてもよいのではないか。

委員長： 2年間かけて美浜区地域福祉計画を作り、39項目にまとめたのは事実なので、グループを構成した場合は、やはりこれに基づいて議論していただくことになる。ただし、今意見が出た、関連、付随する内容について議論してよいかということについては、具体的にグループ会議で提案していただければよいと思う。

委員： 住民の意見や知恵を借りることも議論してはどうかと考えた。39項目をさらに深めるために色々な議論ができる場にしてほしいという希望である。

委員： 15の施策の方向性には、39の基本的な取組項目が網羅されていると考えられる。委員は個人的に、取組項目の必要性や実現の可能性があるということで選択していると思う。アンケートの結果で件数が多いのは、それだけ委員が必要性や実現性があると考えた結果なので、基本的には尊重すべきだが、本当は取組項目全てを実施することが理想的である。

また、実施することについて、委員には、推進協議会委員と、区民という2つの立場があると思う。実際に地域福祉計画の事業を実施するのは、委員である私ではなく、区民である私ということだと考えている。つまり、推進協議会では、実際の実働部隊としてではなく、情報のプラットフォームなどの委員の活動の範囲で検討していくという立場になる。

推進協議会では、計画や事業を広報し、実際に活動する住民を募集するのがよいと思う。グループ会議で話し合う項目以外の内容は、お金の問題もあるが、事務局で実施計画を立てていただいたものを推進協議会で検討し、区民へ募集する形をとれば実施できるのではないか。

委員長： 続いて、グループ会議の進め方について、副委員長からご提案いただく。

副委員長： アンケートで、委員の皆さんの考える優先順位が出た。これからは、グループに分けて勉強会をしていきたい。それぞれグループに分かれて勉強し、それを全体会議で発表して全委員から意見を聴き、またグループ会議で勉強会を進めていくということにしたい。

委員： 勉強会というのが、何を目的に勉強するのが漠然としている。勉強会では、次は

お金、人、組織等をもりこんだ実施計画、構想計画を作らなければいけないのではないか。

副委員長： そういったことは、グループ会議に参加するという方々で決めていただきたいと思います。今日の全体会議終了後に、その会議を行いたい。

委員： グループごとに決めて、統一的な意見が保てるか。構想を作るグループと、勉強するというグループと、色々出てきてよいのか。内容や進め方について各グループで決めてよいのか。

副委員長： それはかまわないと思う。グループで決めたことを、推進協議会で発表し、話し合っ  
て了承を得るということになる。

委員： グループ会議の参加意向のある委員が14人だということだが、その14人でグループを作るということか。残り的人たちはグループに入らず、何の答弁もしないということか。

副委員長： グループではないかもしれないが、全体の推進協議会で検討の結果が発表されるので、そこでグループ会議に入っていない委員の意見を聴くことになる。推進協議会で発表されたことを、全委員で協議する。

また、アンケートでグループ会議に参加できないと回答した方も、少しでも参加できそうであれば、今日残っていただいて、一緒に加わってほしい。

委員： グループ会議で話し合ったことが、推進協議会でひっくり返された場合はどうするのか。またグループに持ち帰って再検討するのか。

副委員長： 推進協議会でひっくり返るということは、それだけよい意見が出たということなので、けっこうなことだと思う。

委員： イメージが混乱している。スパンがはっきりしないので、いい加減な意見が出る。

委員： いい加減というのは失礼である。きちんとした意見である。

副委員長： 勉強会には、やはりそれなりの積み重ねが必要であり、継続していくものである。しかし、末端がいつかというのはわからない。地域福祉計画でいうと5年になるかもしれない。

委員： 単なる勉強会であればよいが、構想を作るとなるとかなりの負担になる。私は推進協議会の目的がはっきりした上でなら参加してもよいと回答したが、グループ会議希望者だけで、構想が作れるのか危惧している。グループではできる部分だけやっ  
ていこうということなのか。

副委員長： 当然、できるものからしかできないので、そういうこともグループで話し合っ  
てほしい。

委員： グループ会議は、今年度から始めるのか。来年度になると、また新しい委員が入れ代わると思うが。

副委員長： 今年度から始められるのが理想的だと思う。

委員長： 来年度の話が出た。また、情報のプラットフォームとしての役割と同時に、グループ会議の運営をメンバーのみでやるのは負担になるのではないかと、実施計画を事務局が作れるのかという意見が出ている。

事務局のスタンスや、来年度以降の推進協議会の委員募集についてということもあるので、事務局から説明をお願いしたい。

事務局： アンケートの話に戻ってしまうが、今回のアンケート結果は、各委員がご自身で関心のあることや優先的に取り組む必要があると考えるものが反映されていると思う。それから、グループ会議の参加については、これまでの会議の経過から言うと、強制ではなく任意参加であるということだった。

グループ会議は、決定したテーマについて期限を設けずにできる範囲で検討していただくということで、それほど負担がかからないように運営していただければと思う。先ほどグループ会議で構想等というお話があったが、そもそもこのグループ会議は取組課題について、内容を深める、掘り下げることが基本だと思う。具体的には、事業対象者の選定、把握方法、事業費、周知方法、担い手といったことが考えられ、短期間で結論が出るものではないと認識している。

グループ会議で検討されたことは推進協議会の全体会議で報告し、グループ会議に参加できない委員にもその場でご意見、ご助言をいただき、議論を深めると同時に、研究成果等を共有できればと思う。

次年度の推進協議会委員については、現在の委員に継続の意向を確認しできるだけ参加していただき、地域福祉活動実践者、団体、組織、公募委員といった選出分野のカテゴリが大きく崩れる場合には補充も検討する必要があると考えている。

委員長： 1点目は、次年度は選出分野のカテゴリのバランスが大きく崩れなければ、現行メンバーで継続したいということ、2点目はグループ会議を負担なく運営してはどうか、構想、実施計画等は、短期間で結論を出すのではなくグループで勉強して議論していく必要があるのではないかという説明だった。

委員： 行政が当初説明していた推進協議会の目的は、情報のプラットフォーム、情報交換の場ということだったが、それが構想計画なども作ってよいというようにはっきり変わったということでしょうか。

事務局： 推進協議会の役割を変えるものではない。推進協議会には情報のプラットフォームを基本として広報啓発、地域福祉の広告塔といった役割をお願いしているが、そのためにはまず、地域福祉計画の39項目について委員自身が内容を深く理解する必要があり、そのためのグループ会議であると考えている。

委員長： 推進協議会の規約等を変える予定はないということだった。その上で、例えば、委員が担い手になるのではなく担い手をどう確保するか、といった具体的な議論ができるような組織運営について、委員の皆様の意向も踏まえて考えたのがグループ会議である。実施計画となると、推進協議会は情報のプラットフォームなので規約上できないと思うが、委員の総意でここまで到達したとご理解いただきたい。

委員： グループ会議で勉強したことを推進協議会で発表し、何らかの結論を出すということだと思うが、その結論はどうするのか。

副委員長： その結論に基づいて、また皆さんで考えればよいと思う。まずは、アンケート結果により勉強を始めてはどうか。

- 委員： グループ会議の目的、目標がはっきりしない。例えば生活支援ならば、委員長、副委員長はどんなイメージを持っているのか。自治会に、計画に載っているからこれをやれというのか。
- 副委員長： 計画を広報して、こういう方法があるといった情報発信をしていく。我々が出てきた芽をできるだけ手助けしていく必要がある。
- 委員： 情報発信ならば、目的がはっきりする。
- 委員： 各地域によって事情が違うので、地域福祉は地元でしかできない。実践には色々な方法があってよいと思うので、勉強しながらその方法を積み重ねていき、その中からそれぞれが自分の地域に合う方法を見つけ、地域で実施していけばよい。
- 委員長： それでは、今日のアンケート結果と今後のグループ会議の進め方については、ご賛同いただけたと思う。グループ会議のテーマや座長、進め方については、この後参加できる方に残っていただいて打ち合わせしたい。
- 委員： 委員全員がどこかのグループに所属するべきではないか。
- 委員： 推進協議会の名前で新しい事業に10万円補助するという公募があったが、結果はどうなったのか。委員の名簿が載ったチラシが配布されていた。
- 委員長： 地域福祉パイロット事業の進捗状況について、事務局から報告をお願いしたい。
- 事務局： 地域福祉パイロット事業は、推進協議会ではなく、千葉市社会福祉協議会が市から補助を受けて実施した。推進協議会だよりには、こういうことをやっているという広報として掲載したもので、推進協議会で募集していたわけではない。
- 募集の結果、63事業の申請があり、審査、決定した。現在実施中の事業、未実施の事業が多くあるので、全ての事業終了後、その成果を踏まえて後日報告させていただきたい。
- 委員： それではなぜ委員名簿を掲載したのか。それを見た人は、推進協議会で募集しているように思うはずだ。
- 事務局： 推進協議会だより第1号で、委員名簿と、その下に地域福祉パイロット事業を実施しているというお知らせを掲載した。事業の問合せ先は社会福祉協議会になっており、読んでいただければ推進協議会で募集しているわけではないということがご理解いただけたと思う。
- 委員長： 今回で臨時会議を含め、推進協議会を5回開催し、アンケート結果をもとにグループ会議を開催する目途がついた。委員長、副委員長としては、3月までに一回グループ会議が開かれればと考えている。
- 今後新しい委員も加わるということもあるので、今回で18年度の推進協議会としては最後の会議にしたい。ただ、任期はまだ残るので、グループ会議等に積極的に参加してほしい。この後、グループ会議に参加できる方に残っていただいて、具体的な協議に入りたいと思うがいかがか。
- 委員： 私は推進協議会も含めて様々な組織に所属しているので、会議には出られないと回答したが、推進協議会委員になった以上は時間があればグループ会議にも参加したいと思う。グループ会議の開催日時、場所等をお知らせいただければ、可能な限り参加

したい。

委員長： ご意見ありがとうございました。それでは、第4回の推進協議会はこれで終了したい。休憩後、グループ会議に参加できる委員は残っていただいて、具体的な内容について協議したい。

(全体会議終了)

### 【グループ会議】

参加委員 北委員長、飯野副委員長  
内田委員、桑原委員、佐々木委員、鈴田委員、高橋委員、内藤委員、長岡委員、  
長倉委員、成田委員、松本委員、山崎委員 (13名)

副委員長： グループ会議に参加意向のある委員のアンケート結果を見ると、1位にあげた人が多い項目は、(1)町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援が3人、(9)居場所、交流の場づくりが2人、この項目は2位が3人いる。この2つの項目はぜひグループ分けした方がよいと思う。

委員： 1グループ5人くらいはいた方がよい。今、グループ会議に参加できる委員が15人くらいなので、グループ数は3つくらいではないか。

委員： 仮に、委員が選択した順位に点数をかけてみると、点数が高い順に(1)町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援、(9)居場所、交流の場づくり、(11)社会福祉協議会の機能充実となる。

副委員長： そうすると、先ほど出た人数割りでいうと、その3つのグループということになるか。

委員： 1人1つのグループという前提だと3グループくらいだが、複数に参加できる方が多ければ、もっと増やせるかもしれない。ただ、会議の日程調整をする必要はある。

委員： (1)町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援は、地元の支援であり、(9)居場所、交流の場づくりは、場所づくりである。あともう1つは自治体が応援するものということで(4)市民に身近な公的支援を選択してはどうか。

(11)社協の機能充実は、(1)町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援の中に含まれるのではないか。

委員： 14人のうち、10人が公募委員で、組織代表がほとんどいない。

委員： これをやりたいと希望する人が多い項目が妥当だと思う。実際に、各テーマにどのくらいの希望者がいるか確認してはどうか。

推進協議会の委員が31人いて、グループ会議の参加者は約半数である。

副委員長： 今後、参加者が増えていくかもしれない。それでは最初のグループ会議のテーマは、(1)町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援、(9)居場所、交流の場づくり、(11)社会福祉協議会の機能充実の3つとしたい。

また、それぞれのグループに所属する委員と、座長、副座長を決めてほしい。



委員： とりあえず、欠席委員の分も含めアンケートで1位と回答したテーマに委員を分けてみればよい。

(グループ会議のメンバー 座長 副座長) 座長、副座長は暫定

(1) 町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援

桑原委員、斉藤委員、佐々木委員、 長岡委員、村社委員(5人)

(9) 居場所、交流の場づくり

内田委員、 鈴木幽委員、鈴木田委員、 成田委員、高橋委員、松本委員(6人)

(11) 社会福祉協議会の機能充実

大坪委員、内藤委員、 長倉委員、 二宮委員、光延委員、山崎委員(6人)

委員長、副委員長は後日相談。

副委員長： グループ内で連絡を取り合うために、連絡先を交換しておいたらどうか。

委員： 事務局で把握しているのではないか。グループごとに改めて交換するより効率的だと思うので、名簿を事務局で作成してもらえないか。

副委員長： 個人情報関係で、お互いの了承を得ないと難しいのではないか。

委員： グループ内でしか使用しないのであればかまわないのではないか。

委員： 個人が了解すればよいと思う。緊急を要する会議ではないので、委員就任時に事務局に提出したものから、名簿を作成してもらえばよい。

委員： グループ会議の中では自由に使えるようにしたい。

委員長： それではここにいらっしゃる方からはグループ名簿を作成してメンバーに渡してもよいということでしょうか。

委員： 委員長、副委員長はグループ会議にはどのように関わるか。

副委員長： 必要に応じ、参加できるときに参加したい。

委員： グループ会議のテーマと暫定座長が決まったので、せっかく集まったのだから日程を決めてはどうか。

委員： もう1つ確認をしたい。グループ会議の運営にあたっては、事務局は関わらずに、メンバーのみで連絡や記録等、事務的なことを進行するということが。グループ会議は推進協議会の活動であると思うが、区役所の会議室を借りられるのか。

副委員長： 基本的にはグループのメンバーで運営をすると考えている。区役所の部屋は職員が一緒についていないと借りられないようである。

委員： そうであれば、原則的には使えないという理解でよいのか。

委員長： 事務局、そういう理解でよいか。

事務局： 事務局のグループ会議への関わりについては、備品の貸し出しや印刷といったところで支援させていただくつもりである。部屋は、基本的には公民館等を利用させていただいて、どうしても借りられない場合には区役所の庁舎も含めてと考えている。

委員： その手配は事務局でしてくれるのか。

委員： 会場設定、会議の連絡等は当然事務局でやってもらいたい。

- 委員： せっかくグループ会議を作ったのだから、趣旨や事務局の関係、会場の手配はどうするのかといったことも含めて決めていただきたい。座長になった人が全てやるのは無理である。
- 委員： 座長の要請により、事務局の方にもグループ会議に参加してほしい。また専門的な知識が必要なテーマや、検討する中で疑問点等も出てくると思う。
- 副委員長： 事務局を通して専門の部署に依頼できると思う。その他、実際に活動している組織を訪問するといった場合も事務局を通した方がよい。テーマについて検討する中で出た問題点について、その解決方法等も話し合うことになると思うが、実際に活動している人と接触しながらまた進め方を考えてもよいと思う。
- 委員： グループ会議の進め方はまた改めてメンバーで集まって協議すればよいが、その前に会議の会場を誰が手配するのか、事務局はどこまで関わってくれるのか、といったことを明確にしておく必要がある。
- 1 回目は区役所で開催してはどうか。
- 委員： 1 回目の日程調整を今してはどうか。
- 委員： それから、年度内に開催する必要があるのかという問題もある。今年度の推進協議会はもう終了したのに、グループ会議を開催する必要があるか。推進協議会が終了したのに、グループ会議だけ存続しているのは、組織のあり方としておかしいのではないか。
- 委員長： 委員としての任期はまだ残っているので、年度内で1 回くらい開催した方がいのではないか。
- 委員： 委員長、副委員長はグループ分けした年度からスタートした方がよいのではないかという意見だと思う。実際にできるかできないかは、グループで決めればよいと思う。
- 委員： 次年度の推進協議会はいつ開催される予定か。
- 事務局： 今年度の第1 回が7 月下旬で、だいぶ遅くなってしまったが、次年度は早期に開催したいと考えている。しかし、委員選出団体等の役員改選もあるので、調整しながら推進協議会委員の選任事務を進めていく必要があり、早くても5 月後半になるのではないか。
- また、先ほど質問のあった件だが、これまでグループ会議は自主的に運営していただくということで話していただいているが、事務局が全く関わらないということではなく、行政説明が必要な場合に参加するといったことは当然あると考えている。
- 委員： 18 年度の推進協議会は終わったのに、その下部組織であるグループ会議が活動するのは、組織的におかしいのではないか。19 年度の委員がどうなるかもまだわからない。
- 委員： 委員は原則このままで、内容は引き継ぐということでよい。基本的なことが周知徹底できていないからこういう質問が出る。
- 委員長： 推進協議会の全体会議は今日で終わりだが、委員としての任期は残っているし、先ほど事務局から説明があったように、委員も基本的には継続するということがあった。
- 委員： 全体会議が終わった後にグループ会議を開催し、その結果をどこに報告するのか、

ということだと思う。年度内にもう1回全体会議を開いて、グループ会議の内容を報告、承認して次年度に送ればよいということではないか。

委員： グループ会議を年内に開催するのであれば、その後にもう1回推進協議会の全体会議を開催するのが本来だと思う。そうでないと組織として整合性がとれなくなる。要綱を変えなければいけないのではないか。

副委員長： 委員としての任期は、3月末まで残っているから、その間にグループ会議を進めるのはかまわないのではないか。

委員： かまわないが、グループ会議で年度内に検討したことをどこに報告するのかという問題がある。次年度の推進協議会には申し送りするくらいしかできない。

事務局： 事務局としては、推進協議会の全体会議は今日で終了したが、要綱上、委員任期は1年で3月31日までであるので、その間にグループ会議を開催することもあり得ると考えている。

委員： 堂々巡りになってしまうので、整理してほしい。

組織内で選出委員が変わっても、旧委員が新委員にきちんと内容を報告すれば、流れていく。以前から参加している委員も新しい委員も、内容をきちんと把握しているということにしないと毎回最初から議論しなければいけなくなってしまう。公募委員は別にしても、組織から出ている委員には報告義務があることを前提に話さなければいけないと思う。

委員： グループ会議のメンバーは変わるかもしれないが、新しいメンバーになっても内容はそのまま継続していくようにすれば問題ないと思う。

委員長： グループの自主性に任せるが、方向性としてはグループ会議を年度内に開催していただき、新年度の推進協議会で、第1回のグループ会議の内容を報告し、継承されればよいのではないか。また一から議論ということになると、今年度と同じ、グループ会議設置の理由や位置づけ、推進協議会のあり方等の議論の繰り返しになる。

委員： 私はおそらく委員を交代するが、今回のテーマは私の主観で選んだので、それを押し付けてもよいものか躊躇う。

委員長： 仮に委員が交代したとしてもグループ会議に参加したいという希望があれば引き続き参加できるかどうか、事務局と整理したいと思う。

今日はここまでにして、いったん整理させていただきたい。

(グループ会議終了)